

# 特集 ようこそ「図書」

立ち寄るとテーマ別におもしろそうな本が並んでいて、本棚にもほかの図書館ではみない本や雑誌がいっぱい。そんな国際交流センターならではの「図書・資料室」をご案内します。

## 国際交流センターならではの本って例えば？

- 国際交流に役立つ本
- 国際理解を深める本



姉妹・友好都市コーナー

- 世界の国の言葉や文化を知る本
- 多言語絵本、英語コミック
- 日本語/外国語の新聞・雑誌
- 国際交流団体の報告書、情報誌などがあります。



〈世界の絵本のコーナー〉人気の『はらぺこあおむし』は7か国語で読み比べができます。ウルドゥ語の“ヒジャブ”のお話など、その国の文化を感じられる絵本もあります。

## 特徴あるコーナーとは？

- 〈展示コーナー〉〈おすすめ本コーナー〉読む本に迷ったらここから挑戦！他に国際交流センターの講座やイベントにあわせたコーナーもあります。これまでに評判のよかったテーマは「世界の家庭料理」「マンガで深める多文化理解」などです。



〈展示コーナー〉

2、3月は「日独交流160周年～日本からドイツから日本へ思いをつなぐ」

〈おすすめ本コーナー〉

3、4月は「中村哲さんの生き方から学ぶもの」

## 「図書・資料室」の利用案内

- 室内で自由に読めますが、貸し出しはしていません。閲覧するための席があります。



- 登録や手続きは必要ありません。無料です。(小学3年生以下は保護者同伴で利用できます。)

## 図書職員のお仕事

### OPENの準備

- 今日の新聞の閲覧準備
- 郵送されてきた全国の交流協会や民間団体の報告書、機関紙を県別や団体ごとに整理して並べる



英語・中国語・韓国語の新聞もあります



国際交流協会や民間団体の機関紙

### 雑誌(外国語の雑誌も)の受け入れ

- 雑誌をチェック→受入作業『National Geographic』『Time』『ひらがなタイムズ』『alternativa』『Latin-a』など、日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語などの雑誌があります。

### 新書や寄贈図書の受け入れ

- 本をチェック→受入作業(所蔵印、バーコード、カバー掛け、登録など)



新書にカバーをかける

## 「図書・資料室」で読んでおきたい一冊

### 中村 哲 著『天、共に在り—アフガニスタン三十年の闘い』(NHK出版)



(公財)川崎市国際交流協会 会長  
平尾 光司

アフガニスタンで医療、農業など人道支援に取り組んで来られた中村哲先生が、凶弾に倒れて1年になる。当協会でご講演いただいた3か月後のことであった。先生の遺徳を偲ぶ行事は、アフガニスタンの現地でも日本でも続いている。中村哲先生は超多忙の中でもアフガニスタンへの関心、支援を求めするために多数の著作を残されている。その中でも本書は自叙伝として、波乱に満ちた人生を振り返っておられる貴重な記録である。

第1部「出会いの記憶」では、生い立ちと家族の群像が紹介される。炭鉱の町・若松市の\*沖仲仕の一族に生まれ、昭和の国民的作家火野葦平を叔父に持ち、昆虫少年として育つ。医学部に進みキリスト教に入信、登山を楽しむ。昆虫採集と登山が縁となりアフガニスタンに遠征する。

第2部「命の水を求めて」では、国際医療協力に参加して

アフガン戦争の困難な状況の中で、ハンセン病院の建設から始まり、飲料水、農業用水のために1600本の井戸を掘る。そこで悲惨な農村の現実から、医療よりも水、食料の確保へと活動を広げる。

第3部「緑の大地をつくる」では、アフガニスタンの悲劇の根因は旱魃による農業崩壊と認識。農業再建のために用水路建設に挑戦する。暴れ川のクナル河の水を砂漠に導き豊かな農地に変えるという壮大な計画に挑戦する。土木工学を勉強し自ら重機も操作して建設の先頭に立つ。その熱意と行動に、地元の農民も信頼して積極的に参加するようになる。

第4部「沙漠に訪れた奇跡」では、用水路が完成して不毛な沙漠が豊かな緑の大地に生まれ変わり、人々の生活が再建・安定していく様子が報告される。



